



秋の四辺形はペガサス座の一部なので、別名をペガサスの四辺形といいます。秋の四辺形は逆さを向いたペガサスの胴体になっています。天馬の姿を想像しながら、さらに星をたどってみてください。ペガサス座の星は、いくつ見えるでしょうか。

ところで、秋の四辺形のうち、北東に輝く「アルフェラッツ」はペガサス座の星ではありません。アルフェラッツとは「馬のへそ」という意味で、ももとはペガサス座の星でもあったのですが、1928年に開催された国際天文学連合において、すぐ隣に輝くアンドロメダ座の星と正式に定められました。やはり、“馬のへそ”よりも、“アンドロメダ姫の美しい顔”のほうが大事だった、ということでしょうか。

♪こうま座 - 難易度★★★★★ -

ペガサス座のすぐそばには、「小さいしかく」があります。ちょうどペガサスの鼻の頭のまえ、すこしいびつな四角です。これは、こうま座といいます。全天に輝く88星座の中では、みなみじゅうじ座に次いで2番目に小さいミニ星座です。しかも、4等星や5等星というかなり暗い星達ばかりでできています。大阪ではなかなか見つけられませんが、街明かりの少ないところへ出かけたときに、ぜひ探してみてください。

こうま座 α 星は、4等星の「キタルファ」です。馬の一部、という意味があります。その名のとおり、星座絵では馬の頭だけが描かれています。

♪さんかく座 - 難易度★★★ -

秋の神話に登場する悲劇のヒロインといえば、アンドロメダ座に輝くアンドロメダ姫です。今回取り上げるのは、そんなアンドロメダ座のすぐ南に輝く3つの星がつくる「小さいさんかく」、さんかく座です。

3つの星を結べばどれだって三角形になるだろう！とも言いたくなります。しかし、あの細長い二等辺三角形を見ると妙に納得できてしまうのが、さんかく座の不思議な魅力です。

さんかく座 α 星は、「カプト・トリアングリ」といって、三角のあたま、という意味があります。その名のとおり、ちょうど二等辺三角形の頂点に輝く星です。

この3つの星は、3等星もしくは4等星ですから、少し難しいかもしれませんが、目がよければ大阪の空でも見つけることができます。ぜひ晴れた夜に、ペガサスの四辺形からアンドロメダ座をたどって、さんかく座を探してみてください。

西野 藍子(科学館学芸員)